

ときわい みづき
常盤井 美月さん(越廼中2年)

詩のリズムを感じたい



完成させるのは「あなた」。

読者に委ねる詩の形



最果タヒさん 共感求めぬ感性に支持

最果タヒさんの作品「僕」は、読者の感性に訴えかける。詩の形は、読者の感性に委ねられている。...

「わたしは、言葉を書いている。けれど、それを詩にするのは、きつと読んで『あなた』なのだ」

私は、この最果タヒさんのメッセージを読んで、とても共感しました。詩を書き、表現する

のは書き手の方だけれど、その「言葉」を読んで、どう表現するのかというのは、読み手の方に委ねられていると思ったからです。

私は普段、学校の授業では詩を読むけれど、自分から手にとって読むことはありませんでした。最果さんの作品も読むことはありません。

最果さんは小説の執筆もしているところだけれど、私はぜひ「詩」を読んでみたいです。「読んで自分のだというのはリズムで分かる」「読んでいて気持ちがいい」と記事には書かれており、私もそのリズムを感じてみたいと強く思いました。今度本屋に行ったら、詩集を探して読んでみるつもりです。

4月12日付(14面)